

コース	年次	必修選択の別	科目名	単位数	授業科目コード	講師	実務教員授業
マーケティング・サイエンス	1	必修	ホスピタリティⅠ	2	30	井上 由美子	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	ホスピタリティⅡ	2	30	井上 由美子	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	マーケティングⅠ	2	30	干田 英晶	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	マーケティングⅡ	2	30	干田 英晶	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	経営学Ⅰ	2	30	前田 恭孝	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	経営学Ⅱ	2	30	前田 恭孝	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	ビジネスマナーⅠ	2	30	井上 由美子	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	ビジネスマナーⅡ	2	30	井上 由美子	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	プレゼンテーションⅠ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	プレゼンテーションⅡ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	1	必修	外国語Ⅰ	2	30	町 隆美	
マーケティング・サイエンス	1	必修	外国語Ⅱ	2	30	町 隆美	
マーケティング・サイエンス	1	必修	外国語演習Ⅰ	2	30	町 隆美	
マーケティング・サイエンス	1	必修	外国語演習Ⅱ	2	30	町 隆美	
マーケティング・サイエンス	1	選択	簿記Ⅰ	2	30	大塚 通成	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	簿記Ⅱ	2	30	大塚 通成	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	情報処理Ⅰ	2	30	山口 憲二	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	情報処理Ⅱ	2	30	山口 憲二	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	時事研究Ⅰ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	時事研究Ⅱ	2	30	伊藤 憲彦	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	計算能力演習Ⅰ	2	30	大塚 通成	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	総合科目演習Ⅰ	2	30	高屋 政一	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	総合科目演習Ⅱ	2	30	高屋 政一	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	ビジネス検定対策Ⅰ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	ビジネス検定対策Ⅱ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	ビジネス検定対策Ⅲ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	ビジネス検定対策Ⅳ	2	30	滝口 直樹	○
マーケティング・サイエンス	1	選択	課程演習Ⅰ	2	30	加藤 淳	
マーケティング・サイエンス	1	選択	課程演習Ⅱ	2	30	加藤 淳	
専門必修科目合計				28	420		
専門選択科目合計				30	450		
合計				58	870		

年度	2024	学期	前期
科目名	ホスピタリティ I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	井上 由美子		

講義概要

一般的に、「ホスピタリティ」とは「おもてなし」や「心配り」など、サービスの延長線上にあるもの、もしくはサービスを補充するものとして混同・誤解されている場合が多い。本講義では、ホスピタリティ産業と呼ばれる業界の様々な事例を紹介しながら、サービスとホスピタリティの違いやホスピタリティの基本的な考え方を学ぶ。

達成目標

ホスピタリティの基本的な考え方を理解したうえで、ホスピタリティ産業にはどのような業種業態があるのか、そこで発揮されるべき「ホスピタリティ」はどんなことなのかを学び、普段の生活の中でも発揮できるようにする。

学修成果

日常生活で相手を思いやって行動することができるようになる。また、ホスピタリティ産業に興味を持ち、就職活動等に役立てることができるようになる。

事前学習

配布資料に事前に目を通しておく

事後学習

復習

授業計画

回	授業計画
第 1 回	ガイダンス なぜ、「ホスピタリティ」を学ぶのか
第 2 回	モノ消費からコト消費の時代へ
第 3 回	サービスとは何か？
第 4 回	サービス品質の特徴と品質基準
第 5 回	ホスピタリティの定義とサービスとの関係
第 6 回	ホスピタリティが生まれやすい企業文化とは？
第 7 回	現状と今後の課題
第 8 回	業界・職業研究①（旅行）
第 9 回	業界・職業研究②（バス・鉄道・航空）
第 10 回	業界・職業研究③（旅館・ホテル）
第 11 回	業界・職業研究④（テーマパーク）
第 12 回	業界・職業研究⑤（飲食・小売）
第 13 回	業界・職業研究⑥（冠婚葬祭事業）
第 14 回	テスト対策
第 15 回	定期試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ホスピタリティⅡ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	井上 由美子		

講義概要

現在では、感情的知性が求められている。その中で、知識や情報をコントロールし、他社との信頼に基づいたコミュニケーションのあり方や人間だけが持つ他社への共感という心の動きに着目し、ホスピタリティ産業に従事する人材が持つべき社会性やコミュニケーション能力について考察する。

達成目標

「相手の立場に立って考え行動する」という顧客への共感や、顧客との信頼関係が不可欠になるので、顧客満足最大化のために、授業で学んだ事を生かして、普段の生活から誠実さや責任感を身に付ける。

学修成果

ホスピタリティ人材として、相手の立場に哲多考えて行動できるようになる。また、普段の行動から先の見通しができるようになり、生産性の向上ができるようになる。

事前学習

配布資料に事前に目を通しておく

事後学習

復習

授業計画

回	授業計画
第1回	ガイダンス なぜ、「ホスピタリティ」を学ぶのか
第2回	感情労働の拡大
第3回	感情的知性「EI」 なぜ「EI」が重要なのか
第4回	事例研究①
第5回	共感の3タイプ 認知的共感・情動的共感・共感的行動
第6回	顧客に提供する3つの価値 経済的価値・機能的価値・感情的価値
第7回	第3の場所（サードプレイス）
第8回	事例研究②
第9回	感情労働におけるコミュニケーションとその特質
第10回	感情労働と心の商品化
第11回	「接客」の特質 非接客活動と接客活動
第12回	事例研究③
第13回	サービスパーソンとホスピタリストのちがい
第14回	テスト対策
第15回	定期試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	マーケティング I	単位	2 単位
学科コース	マーケティングサイエンスコース		
講師名	干田 英晶		

講義概要

企業にとって商品を宣伝し販売するだけがマーケティング活動ではない。どのようにしたら顧客とのよりよい関係を作ることができるか？そのために企業はどのような活動をしていくことが重要なのかを実際の企業の例を取り上げながら学習していく。

達成目標

マーケティングの基本である STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）と 4P（プロダクト、プライス、プレイス、プロモーション）について理解を深める。

学修成果

マーケティングの基礎を学び、身の回りの実際の企業の実例を理解することができる。自分の国の企業と比較することでその違いを理解することができる。

事前学習

講師が授業で示した次回学習内容について予習する。30 分程度

事後学習

授業で学んだことを復習し、クラスノートに記入する。30 分程度

授業計画

回	授業計画
第 1 回	講義ガイダンス 「クラスルーム」アプリの説明 なぜ「マーケティング」を学ぶのか？
第 2 回	マーケティングの歴史 どこでどのように生まれたのか？ 日本でのマーケティングの始まり について
第 3 回	顧客の「ニーズ」とは？ STP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）につ いて
第 4 回	マーケティングミックスの 4P について マーケティングの神様フィリップ・コト ラー
第 5 回	① プロダクト 顧客は何に対してお金を支払っているのか？ 有形の商品と無形のサービス ソリューションとは
第 6 回	② プライス 価格はどのようにして決まるのか？原価と経費 高くても売れる商品 価格訴求 グラデーション戦略
第 7 回	③ プロモーション 広告と販売促進 インターネットと広告媒体の変化 口コミの変化と正しい情報 の重要性
第 8 回	④ プレイス 商品はどこで売られるのか？ 流通形態の歴史的な変化 EC と物流 商業立地
第 9 回	プロダクト・ライフ・サイクルと新製品開発の重要性 企業や製品の寿命 ロングセラーとベストセラ ー マーケットシェア
第 10 回	モノとコトの消費 消費形態の変化 体験価値と経験価値 サービスという商品価値
第 11 回	ICT の進歩とマーケティング スマホがあればなんでもできる時代 キャッシュレス社会 企業の情 報収集 ビックデータ
第 12 回	顧客との関係づくり 顧客エンゲージメント マーケティングはセールスを不要に するしくみ作り
第 13 回	インターナル・マーケティング 社員も顧客 リレーションシップ・マーケティング
第 14 回	講義のまとめ（期末試験前の復習） クラスルームアプリの復習（試験対策）
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	浅井慶三郎・中原龍輝・干田英晶共著
タイトル	フードマーケティング
出版社	(公社) 全国調理師養成施設協会

参考書

著者名	
タイトル	Web サイトなどから適宜引用
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	マーケティングⅡ	単位	2単位
学科コース	マーケティングサイエンスコース		
講師名	干田 英晶		

講義概要

マーケティング1で学んだ基礎理論をもとに企業のマーケティング活動をさらに深く考察する。実際の企業の例を取り上げながら学習していく。4Pから7Pへと概念拡張した3P（フィジカルエビデンス、ピープル、プロセス）について詳しく学ぶ。

達成目標

基本であるSTP（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング）を念頭に置きながら4P（プロダクト、プライス、プレイス、プロモーション）から7Pについてさらなる理解を深める。

学修成果

マーケティングの基礎からさらに応用的な知識を深めて、身の回りの実際の企業の実例を理解しながら、自分の国の企業と比較することができる。

事前学習

講師が授業で示した次回学習内容について予習する。 30分程度

事後学習

授業で学んだことを復習し、クラスノートに記入する。30分程度

授業計画

回	授業計画	
第1回	講義の受け方 クラスルームの使い方について マーケティング1とマーケティング2の違いについて	
第2回	なぜいま「サービス・マーケティング」を学ぶ必要があるのか？モノのマーケティングからコトのマーケティングへ	
第3回	サービス経済化が進展する社会背景 高度化の関係について	モノの充足とニーズの
第4回	サービスのマーケティング・ミックスについて	4Pから7Pへ
第5回	新しく加わった3Pとは何か？ た3Pについて	4Pと7Pの関係について 増え
第6回	⑤ フィジカル・エビデンスについて	顧客は何にお金を払っているのか？
第7回	⑥ ピープルについて か？	マーケティング活動の当事者は誰なの
第8回	⑦ プロセスについて 4Cとソリューション	企業主導ではない顧客目線からの
第9回	エンカウンターとは？ か	企業と顧客との接点は「誰」が担うの
第10回	セルフサービスとエンパワメントについて それぞれの役割について	共創の時代における企業と顧客の
第11回	サービス・マネジメントとは	企業は何をマネジメントするのか
第12回	生涯価値と顧客の関係について ロジー	サービス・マーケティングとテクノ
第13回	リレーションシップからパートナーシップへ ケティングの役割	ウェルビーイング社会におけるマー
第14回	講義のまとめ（期末試験前の復習）	クラスルームアプリの復習（試験対策）
第15回	期末試験	

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	浅井慶三郎・中原龍輝・干田英晶共著
タイトル	フードマーケティング
出版社	(公社) 全国調理師養成施設協会

参考書

著者名	
タイトル	Web サイトなどから適宜引用
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	経営学 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティングサイエンスコース		
講師名	前田 恭孝		

講義概要

株式会社の成立経緯や特徴、大規模化による市場の独占・寡占、これを統制するためのコーポレート・ガバナンスなどを学ぶ。あわせて、企業の大規模化に対応するため誕生した経営学の成立経緯と揺籃期の代表理論であるテイラーの「科学的管理法」、メイヨーとレスリスパーガーの「人間関係論」、ファヨールの「伝統的間論」を学ぶ。

達成目標

現代の社会・経済の中心になっている企業を説明する概念、用語、基礎的な理論を学び、そのアウトライン(どのような機関か、何をどう行っているか、どのような問題があり、社会はそれにどう対処しているかなど)を知る。

学修成果

受講者の多くが働くことになる企業について、どのような経緯で成立した機関か、どういう仕組みで機能しているか、そこで働くとはどういうことかなどを知り、社会人になる準備を具体的なイメージをもって進めることができる。

事前学習

特になし

事後学習

特になし

授業計画

回	授業計画
第 1 回	株式会社とは(1)：会社形態の種類と変遷
第 2 回	株式会社とは(2)：企業の巨大化、出資・経営の分離
第 3 回	株式会社とは(3)：企業の社会的責任、企業の調べ方
第 4 回	経営学の誕生：20 世紀初頭の状況と新たな学問への要請
第 5 回	科学的管理法：テイラーの科学的実験と標準化
第 6 回	人間関係論：ホーソン実験と欲求・非公式集団の発見
第 7 回	伝統的管理論：ファヨールから管理過程学派へ
第 8 回	チーム発表：プレゼンテーション(テーマ未定)
第 9 回	独占・寡占行動(1)：特許、商標、紳士協定、談合による独占
第 10 回	独占・寡占行動(2)：合併・買収、系列による独占
第 11 回	独占・寡占行動(3)：財閥、トラストによる独占
第 12 回	コーポレートガバナンス(1)：目的と概要、株主総会
第 13 回	コーポレートガバナンス(2)：取締役会、代表取締役、強化策
第 14 回	期末試験準備：前回までの授業の振り返り・総括
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	プリントを配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	経営学 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティングサイエンスコース		
講師名	前田 恭孝		

講義概要

前期の経営学 I で学んだ企業のアウトラインを元に、現代経営学の理論的な基盤であるバーナードの「近代管理論」、サイモンの「意思決定・システム論」、マーチの「あいまい性理論・ゴミ箱モデル」を学ぶ。また、これらの理論を批判的に拡張・修正したその後の研究を簡単に紹介する。

達成目標

企業の構造・活動を説明する基本的な概念(個人の役割、協働と公式組織、組織を構成するコミュニケーション、意思決定、権威、ルーティンなど)を理解し、これらを使って仕事(アルバイトなど身近な例)を説明できる。

学修成果

講義で学んだ組織・経営に関する概念・用語・理論により、企業における仕事の意味・意義・仕組・問題などを知り、就職後に自分の役割、上司からの指示を理解し、分からないことを上司・同僚に質問・相談できる土台を作る。

事前学習

特になし

事後学習

特になし

授業計画

回	授業計画
第 1 回	企業活動の 4 つの資源(1) : 人・物・金・情報
第 2 回	企業活動の 4 つの資源(2) : 資源を活かすドメイン・戦略
第 3 回	バーナードの理論(1) : 理論の背景・構成・特徴
第 4 回	バーナードの理論(2) : 人間モデル、協働
第 5 回	バーナードの理論(3) : システム論、組織の成立・構成
第 6 回	チーム発表 : プレゼンテーション(テーマ未定)
第 7 回	サイモンの理論(1) : 理論の背景・構成・特徴
第 8 回	サイモンの理論(2) : 限定された合理性、意思決定
第 9 回	サイモンの理論(3) : ルール・プログラム、ルーティーン
第 10 回	マーチの理論(1) : 理論の背景・構成・特徴
第 11 回	マーチの理論(2) : あいまい性、ゴミ箱モデル
第 12 回	マーチの理論(3) : キューバのミサイル危機
第 13 回	その後の研究 : 合理性を修正・乗り越える研究
第 14 回	期末試験準備 : 前回までの授業の振り返り・総括
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験 : 70% 小テスト・課題等 : 30%

教科書

著者名	
タイトル	プリントを配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ビジネスマナー I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	井上 由美子		

講義概要

少人数チームを編成し、良好な人間関係を構築しながら実践的にビジネスマナーを学習する。互いに支え合い切磋琢磨できる環境の中で、誰からも信頼され活躍できる人材育成を行う。あらゆる専門知識の土台となるビジネスマナーを、日常生活でも実践できるよう指導する。

達成目標

ビジネススーツを正しく着る。好印象の挨拶やお辞儀、部屋の入退出など基本動作ができる。社会人としての自覚を持ち、就業マナーや会社組織、敬語の使い分け、電話応対の基礎知識を理解し実践できるレベルを目指す。

学修成果

言葉や態度を駆使して敬意を表す様々な方法を身につけ、実践できるようになる。目上の相手に対して失礼のない態度を取れるようになる。社会人としての基礎知識を理解し、就職活動に向けての心構えと基本動作が出来る。

事前学習

次回学習に繋がる内容について講師指定の課題を行う 60分程度

事後学習

配布プリントを見直して復習し、1冊のファイルにファイリングする 60分程度

授業計画

回	授業計画
第1回	講義ガイダンス チーム編成 チーム内で自己紹介後チーム名を相談 朝礼の仕方
第2回	朝礼 チーム名とメンバー紹介 学生と社会人の違いを5つの観点で比較し、目標を明確化する
第3回	朝礼 大人としての自己責任 第一印象の重要性 メラビアンの方則
第4回	朝礼 おしゃれと身だしなみの違い スーツの正しい着方 準備と手入れ方法
第5回	朝礼 基本の立ち方 座り方 お辞儀の仕方 入退室動作の基本トレーニング
第6回	朝礼 日本企業におけるタテ組織・ヨコ組織 人間関係構築の基本
第7回	朝礼 ウチとソト ビジネスシーン別挨拶の実習 オンライン画面における身だしなみと好印象に繋がる映り方
第8回	朝礼 指示の受け方 報告・連絡・相談の重要性 6W4H
第9回	朝礼 ビジネス会話の基本 敬語の種類と動詞の置き換え
第10回	朝礼 丁寧語・美化語 間違いやすい敬語について事例紹介・解説
第11回	朝礼 ビジネスコミュニケーションツールの使い分けと優先順位
第12回	朝礼 敬語小テスト及び解説 敬語の間違い探し演習
第13回	朝礼 電話応対① 電話のかけ方 電話メモの取り方
第14回	朝礼 電話応対②電話の取り次ぎ 状況別対応シミュレーション
第15回	期末試験(筆記)

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ビジネスマナーⅡ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	井上 由美子		

講義概要

ビジネスマナーⅠで学習した内容理解をさらに深め、社会人として必要な知識を積み上げる。社会人常識マナー検定 Japan Basic レベルの過去問題集を参考として、社会常識やビジネスコミュニケーション力の向上と、ビジネスマナー知識の定着を図る。就職活動に向けて、自己と向き合い長所・短所が明確になる。

達成目標

ビジネスマナーが「わかる」レベルから「出来る」レベルに近づく。希望する進路先の情報を集め読み取ることが出来る。自己肯定感を高め進路決定に向けて自ら行動出来るようになる。

学修成果

社会人常識マナー検定 Japan Basic に挑戦することで、日本で働くための基礎学力を向上させ、自己肯定感を高める。進路に向けての企業研究や自己との対話を通して、主体的に行動できる。発表スキルが向上する。

事前学習

社会人常識マナー検定の出題項目から指定箇所の課題を行う 60分程度

事後学習

配布プリントにメモした内容を整理し、1冊のファイルにまとめる 60分程度

授業計画

回	授業計画
第1回	前期の成長と変化を振り返り、後期の目標を設定する
第2回	グループディスカッション「働く目的」について
第3回	グループディスカッション「企業研究の目的と必要性」
第4回	働くときの基礎知識 賃金や保証に関する法律
第5回	自己分析の目的と職種研究 身近な人たちの職業から学ぶ
第6回	仕事と自分を結びつける やりたい仕事とできる仕事 ブランドハップンスタンス理論
第7回	学生時代に頑張ったことについて振り返り自己PRの材料を見つける
第8回	他者評価分析 長所強み・短所弱みに落とし込む
第9回	チームごとに1分間の自己PR発表とフィードバック
第10回	企業研究の目的と方法 情報を読み解くコツ
第11回	面接の形式と評価のポイント 基本動作実習
第12回	就職模擬面接 ロールプレイング 入室から退出まで
第13回	就職模擬面接 ロールプレイング 自己PR・長所・短所
第14回	就職模擬面接 ロールプレイング 学生時代に頑張ったこと
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	社会人常識マナー検定 Japan Basic 過去問題集
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	プレゼンテーション I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

講義概要

今講義においては、プレゼンテーションを学問として捉え、基礎知識理解及びアウトライン作成をいちばんの目的としている。目的や聴き手を意識した内容作成及び論理的な事例に基づくアウトライン作成を学習した上で、プレゼンテーションの心構えを理解し適切な仕組み作りができる学習内容となっている。

達成目標

自己紹介や謝罪、依頼など日常生活における様々な場面において、言葉遣いや構成などを体系的に理解した上で適切に表現できるようにする。また、プレゼンテーションの基礎知識を習得し、簡単な発表ができる。

学修成果

自己紹介や謝罪、依頼など日常生活における様々な場面で適切な表現ができる。目的や聴き手分析をした上で論理的な表現ができる。パワーポイントを活用した資料作成ができる。

事前学習

前回の授業の復習

事後学習

授業後の再考察

授業計画

回	授業計画
第 1 回	プレゼンテーションをはじめよう（目的と成功の法則）
第 2 回	プレゼンにおける 3P 分析①（目的と目標分析）
第 3 回	プレゼンにおける 3P 分析②（聴き手分析と多様な価値観）
第 4 回	プレゼンにおける 3P 分析③（場所と環境におけるリスク対策）
第 5 回	シナリオの構築①（三部構成の納得マジック）
第 6 回	シナリオの構築②（イントロダクションと第一印象）
第 7 回	シナリオの構築③（ボディにおけるロジックと客観的データの重要性）
第 8 回	シナリオの構築④（コンクルージョンと想いの構築）
第 9 回	シナリオの構築⑤（多様なシナリオ演繹法と弁証法）
第 10 回	シナリオの構築⑥（多様なシナリオ帰納法と論理法）
第 11 回	デリバリー①（プレゼン流伝わる敬語と抑揚）
第 12 回	デリバリー②（効果的な 3 つの用途別ボディランゲージ）
第 13 回	発表準備（アウトライン作成と表現法振り返り）
第 14 回	プレゼンテーション発表「発展した地方都市と地方ビジネス」
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	プレゼンテーションⅡ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

講義概要

今講義においては、プレゼン場面で「意図ある表現」ができる構成力を養うことを目的としている。そのため、前半はスピーチ発表を行い、表現力とメッセージの重要性の理解に努める。後半は社内プレゼンをテーマとし、会社側のニーズを踏まえた相手主体の発表内容作成ができる学習内容とする。

達成目標

メッセージを伝えるために必要な表現力（声量・アクセント）や構成的なスピーチができる。ビジネス場面で、相手のニーズに応じたプレゼン（スライド使用・ビジネス用語）ができる。

学修成果

スピーチ学習を通じた表現力向上ができる。ビジネス場面での提案ルール・資料作成法・論理的構成を理解し、会社での提案等ができるようになる。

事前学習

前回の授業の復習

事後学習

授業後の再考察

授業計画

回	授業計画
第1回	スピーチ表現①声量やアクセント、スピード（映像から比較し表現理解）
第2回	スピーチ表現②表現練習（複数スピーチ映像を真似て適切な表現を理解）
第3回	スピーチ表現③メッセージの重要性（広告やCMを事例に比較理解）
第4回	スピーチ表現④メッセージ作成（複数テーマのメッセージ及び構成作成）
第5回	スピーチ表現⑤発表準備（テーマ選定、メッセージ、構成、表現練習）
第6回	スピーチ表現⑥スピーチコンテスト（発表、採点評価、FB）
第7回	プレゼンテーション①プレゼン復習（概要及び専門用語）
第8回	プレゼンテーション②メディアリサーチ（発表に必要な情報収集方法）
第9回	プレゼンテーション③発表準備（「学校説明」発表をグループ準備）
第10回	シプレゼンテーション④発表「学校説明」（発表、採点、FB）
第11回	プレゼンテーション⑤社内プレゼン概論（通常プレゼン違い）
第12回	プレゼンテーション⑥社内プレゼンスライド（通常プレゼン違い）
第13回	プレゼンテーション⑦発表準備（スライドやセリフ等グループ準備）
第14回	プレゼンテーション⑧発表「セブンイレブンでの新サービス提案」
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	外国語 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	町 隆美		

講義概要

日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義である。専門学校卒業後の社会に出てから必要となる実践的な日本語を修得し、場面に合わせ使用できるように、動画や新聞記事などを用い、インプット及びアウトプットを行っていく。アウトプットには日本語検定に合格できるよう練習問題も行う。

達成目標

実社会で使える日本語を修得し、実際に使えるようになること。実際に学んだ表現などをアルバイト先で使用し、一ランク上の言葉遣いができるようになる。

学修成果

日本語検定問題を解くことで、語彙力、表現力が向上することが期待できる。その結果、J-test（実用日本語検定）の600点合格を目指す。

事前学習

事前に配布する宿題をしっかりとっておく

事後学習

間違えた問題を復習する

授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション 本講義の目的・目標／実力チェック
第2回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（文法①）解説
第3回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（読解①）解説
第4回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（聴解①）解説
第5回	模擬テスト①
第6回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 模擬テスト①解説
第7回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（文法②）解説
第8回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（読解②）解説
第9回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（聴解②）解説
第10回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（聴解②）解説
第11回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 練習問題（短文作成②）
第12回	模擬テスト②
第13回	1週間のビジネスニュースを聴いて、まとめる 模擬テスト②解説
第14回	総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	J. TEST 実用日本語検定 問題集[D-E レベル] 2021 年
出版社	語文研究社

年度	2024	学期	後期
科目名	外国語Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	町 隆美		

講義概要

前期に引き続き、日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義である。社会に出てから必要となる実践的な日本語を修得し、場面に合わせ使用できるように、動画や新聞記事などを用い、インプット及びアウトプットを行っていく。アウトプットには日本語検定に合格できるよう練習問題も行う。

達成目標

実社会で使える日本語を修得し、経済・ビジネスなどの情報をニュースなどの動画で理解できるようになる。さらに学んだ表現など使用できるようになる。

学修成果

生教材を使用することで、語彙力、表現力が向上することが期待できる。また、J-test（実用日本語検定）の練習問題を行うことで、750点合格を目指す。

事前学習

宿題をやっておく

事後学習

視聴した動画の文字語彙について意味を調べておく。

授業計画

回	授業計画
第1回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（文法③）
第2回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（文法③）解説
第3回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（読解③）解説
第4回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（聴解③）&解説
第5回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（短文作成③）&解説
第6回	模擬テスト③
第7回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 模擬テスト③解説
第8回	ビジネス動画の視聴、内容理解 本文要約、プレゼン準備①グループ毎
第9回	プレゼン準備②グループ毎
第10回	プレゼン発表
第11回	ビジネス動画の視聴、内容理解 本文要約、プレゼン準備①グループ毎
第12回	プレゼン準備②グループ毎
第13回	プレゼン発表
第14回	総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	特になし
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	J. TEST 実用日本語検定 問題集[A-Cレベル] 2021年
出版社	語文研究社

年度	2024	学期	前期
科目名	外国語演習 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	町 隆美		

講義概要

テキストを利用し、N1 レベルに対応した文字・語彙・文法を中心に学習します。語彙は表面的な意味だけでなく、日本独自のコロケーションや使い方を理解し、文法についても JLPT の枠にとらわれず、より実践的な文章を読みこなす力を身に付けることに焦点を当てます。

達成目標

N1 レベルの文字・語彙・文法のそれぞれの分野を学習し、身に付けることで、日本語の難度の高い文章を読みこなし、十分理解できるようになる。

学修成果

高いレベルの文字・語彙・文法といった基礎知識を身に付けることで、ベストセラーとなった書評エッセイを読めるだけの知識と理解力身につけることができる。

事前学習

文法・語彙の事前学習

事後学習

練習問題を行う

授業計画

回	授業計画
第 1 回	オリエンテーション 講義目的・進め方、求められる学習姿勢について
第 2 回	1 課の語彙 意味・使い方・類語などを講義する
第 3 回	1 課の語彙、練習問題の FB 1 課の文法の講義
第 4 回	1 課の文法続き、練習問題の FB 1 課で読めるエッセイの読解
第 5 回	2 課の語彙 意味・使い方・類語などを講義する
第 6 回	2 課の語彙、練習問題の FB 2 課の文法の講義
第 7 回	2 課の文法続き、練習問題の FB 2 課で読めるエッセイの読解
第 8 回	3 課の語彙 意味・使い方・類語などを講義する
第 9 回	3 課の語彙、練習問題の FB 3 課の文法の講義
第 10 回	3 課の文法続き、練習問題の FB 3 課で読めるエッセイの読解
第 11 回	小テストを行う 4 課語彙
第 12 回	4 課の語彙 意味・使い方・類語などを講義する
第 13 回	練習問題の FB 4 課の文法の講義
第 14 回	練習問題の FB 4 課で読めるエッセイの読解
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	田中祐輔
タイトル	『日本がわかる、日本語がわかる』準拠文字・語彙・文法を学ぶための実践練習ノート
出版社	凡人社

参考書

著者名	田中祐輔
タイトル	日本がわかる、日本語がわかる ベストセラーの書評エッセイ 2 4
出版社	凡人社

年度	2024	学期	後期
科目名	外国語演習Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	町 隆美		

講義概要

前期に引き続き、日本語を第二外国語として学ぶ者向けの講義である。社会に出てから必要となる実践的な日本語を修得し、場面に合わせ使用できるように、動画や新聞記事などを用い、インプット及びアウトプットを行っていく。アウトプットには日本語検定に合格できるよう練習問題も行う。

達成目標

あらゆる業種・職種において必須であるビジネスマナー、仕事上のルールなどを再確認し、敬語・接遇用語・ビジネス用語など実社会の実務で使用する日本語が使えるようになる。

学修成果

生教材を使用することで、語彙力、表現力が向上することが期待できる。また、J-test（実用日本語検定）の練習問題を行うことで、750点合格を目指す。

事前学習

文法・語彙の事前学習

事後学習

練習問題を行う

授業計画

回	授業計画
第1回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（文法④）
第2回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（文法④）解説
第3回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（読解④）解説
第4回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（聴解④）&解説
第5回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 練習問題（短文作成④）&解説
第6回	模擬テスト④
第7回	ビジネス動画を視聴し、内容理解 模擬テスト④解説
第8回	ビジネス動画の視聴、内容理解 本文要約、プレゼン準備①グループ毎
第9回	プレゼン準備③グループ毎
第10回	プレゼン発表
第11回	ビジネス動画の視聴、内容理解 本文要約、プレゼン準備③グループ毎
第12回	プレゼン準備③グループ毎
第13回	プレゼン発表
第14回	総復習
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	J. TEST 実用日本語検定 問題集[A-Cレベル] 2021年
出版社	語文研究社

年度	2024	学期	前期
科目名	簿記 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	大塚 通成		

講義概要

簿記についての知識は会社経理をはじめとして様々な場面で必要とされる。本講義では処理方法を学ぶだけでなく、なぜその仕訳を行うのかなど、あらゆる応用ができるように簿記会計の本質的な理解を目標に進めていく。仕訳及び勘定口座への記入を中心に、前期では期中取引を主に学習していく。

達成目標

簿記の 5 要素である「資産」「負債」「純資産」「収益」「費用」と、それぞれの増加・減少が借方と貸方のどちらであるのかを完璧にマスターする。また、各勘定科目が 5 要素のどれに該当するのかを正確に判断できるようにする。

学修成果

会社が行った取引について、どんな仕訳や処理を行うのが適切なのかを判断できるようになることを目標とし、また、会社の数字を見た時に今その会社がどんな状態なのかを理解できるようになる。

事前学習

次回の内容を仕訳を中心に予習しておく（30～40 分程度）

事後学習

簿記の処理方法を復習する。特に仕訳を確実に理解する。

授業計画

回	授業計画
第 1 回	講義の進め方等。 簿記の基礎(借方と貸方など)
第 2 回	簿記の仕訳と 5 要素の意味。
第 3 回	仕訳と T 勘定(勘定口座)への記入。 相手勘定の取り扱いに注意。
第 4 回	勘定記入の復習。 現金、当座預金の処理。
第 5 回	小口現金、小口現金出納帳。
第 6 回	商品売買、掛け取引。 売掛金、買掛金の発生と回収。
第 7 回	仕入返品、売上返品。 商品有高帳(先入先出法の記入方法)。
第 8 回	その他の収益と費用。 貸付金と借入金。未収金と未払金。
第 9 回	前払金と前受金(手付金や内金などの用語も含む)。 仮払金と仮受金(出張旅費の取り扱い、誤入金など)。
第 10 回	消費税を含む商品の仕入れと売り上げ。 ※税抜き、税込みなどの表現を含め、期中仕訳を理解する。
第 11 回	立替金、預り金。 ※給料支払いに預り金が絡むケースも含む。
第 12 回	現金過不足の期中仕訳。 現金過不足の決算整理仕訳(雑損、雑益など)
第 13 回	有価証券の取得と売却。
第 14 回	期末試験のための復習。
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	新田忠誓、桑原知之
タイトル	全経簿記能力検定試験公式テキスト
出版社	ネットスクール出版

参考書

著者名	新田忠誓、桑原知之
タイトル	全経簿記能力検定試験公式問題集
出版社	ネットスクール出版

年度	2024	学期	後期
科目名	簿記Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	大塚 通成		

講義概要

簿記についての知識は会社経理をはじめとして様々な場面で必要とされる。本講義では処理方法を学ぶだけでなく、なぜその仕訳を行うのかなど、あらゆる応用ができるように簿記会計の本質的な理解を目標に進めていく。仕訳及び勘定口座への記入を中心に、前期では期中取引を主に学習していく。

達成目標

簿記の5要素である「資産」「負債」「純資産」「収益」「費用」と、それぞれの増加・減少が借方と貸方のどちらであるのかを完璧にマスターする。また、各勘定科目が5要素のどれに該当するのかを正確に判断できるようにする。

学修成果

会社が行った取引について、どんな仕訳や処理を行うのが適切なのかを判断できるようになることを目標とし、また、会社の数字を見た時に今その会社がどんな状態なのかを理解できるようになる。

事前学習

次回の内容を仕訳を中心に予習しておく（30～40分程度）

事後学習

簿記の処理方法を復習する。特に仕訳を確実に理解する。

授業計画

回	授業計画
第1回	講義の進め方等。 簿記の基礎(借方と貸方など)
第2回	簿記の仕訳と5要素の意味。
第3回	仕訳とT勘定(勘定口座)への記入。 相手勘定の取り扱いに注意。
第4回	勘定記入の復習。 現金、当座預金の処理。
第5回	小口現金、小口現金出納帳。
第6回	商品売買、掛け取引。 売掛金、買掛金の発生と回収。
第7回	仕入返品、売上返品。 商品有高帳(先入先出法の記入方法)。
第8回	その他の収益と費用。 貸付金と借入金。未収金と未払金。
第9回	前払金と前受金(手付金や内金などの用語も含む)。 仮払金と仮受金(出張旅費の取り扱い、誤入金など)。
第10回	消費税を含む商品の仕入れと売り上げ。 ※税抜き、税込みなどの表現を含め、期中仕訳を理解する。
第11回	立替金、預り金。 ※給料支払いに預り金が絡むケースも含む。
第12回	現金過不足の期中仕訳。 現金過不足の決算整理仕訳(雑損、雑益など)
第13回	有価証券の取得と売却。
第14回	期末試験のための復習。
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	新田忠誓、桑原知之
タイトル	全経簿記能力検定試験公式テキスト
出版社	ネットスクール出版

参考書

著者名	新田忠誓、桑原知之
タイトル	全経簿記能力検定試験公式問題集
出版社	ネットスクール出版

年度	2024	学期	前期
科目名	情報処理 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	山口 憲二		

講義概要

ビジネス実務、特に専攻分野のマーケティング関連の仕事に必要な Excel の基礎知識と基本スキルを実習形式で学ぶ。
また同時に、どのような目的のために、どのような計算や分析、グラフ作成が望ましいのかについても理解できるように講義する。

達成目標

Excel の基本操作を一通り習得し、マーケティング関連のビジネス実務で自ら Excel を用いて基本的な計算や分析ができる。また、MOS Excel などの試験にも挑戦する意欲をもつこと。

学修成果

ビジネスの現場で、どのような仕事・問題解決に、どのようなデータを用いて、表計算がどのように役立つかを理解し、実際に自ら Excel を用いて基本的な計算・分析ができること。

事前学習

前回の授業での疑問点を明確にし、教員への質問事項を整理しておく。

事後学習

毎時、実習内容を復習して、疑問点を明確にし、まずは自分で調べる。
授業時間以外にも PC (Excel 等) に触れる必要があります。

授業計画

回	授業計画
第 1 回	Google クラスルーム登録、実習環境の理解、ローマ字かな漢字変換等、Excel の紹介。
第 2 回	タッチタイピングの説明・練習、Word による文章入力練習 1、PC へのファイル保存。
第 3 回	簡単な縦横集計、半角／全角の区別。 計算式の入力とコピー、相対参照の意味。
第 4 回	構成比・累計・増加率の計算、絶対参照の意味。 合計計算の方法、オート SUM の利用と注意点。
第 5 回	ここまでの Excel 機能復習。PC へのファイル保存。クラウド (Google マイドライブ) の利用。
第 6 回	簡単な棒グラフ、折れ線グラフの作成。グラフ作成の目的と相応しいグラフの種類。
第 7 回	円グラフの作成。表とグラフによる売上レポートの作成
第 8 回	前半の総合復習問題演習。Google クラスルームによる出題とレポート提出 (アップロード)。
第 9 回	基本的な関数 (AVERAGE, COUNT, MAX, MIN, SUM) と行の並べ替え。
第 10 回	演算子、論理式と IF 関数による条件付きの計算
第 11 回	総合演習 1 (実務基本レベルの表作成とマイドライブへの保存)
第 12 回	総合演習 2 (総合演習 1 の編集) Google クラスルームによる問題の配布と答案提出
第 13 回	総合演習 3 (実務標準レベルの表作成とマイドライブへの保存)
第 14 回	総合演習 4 (総合演習 3 の編集) Google クラスルームによる問題の配布と答案提出
第 15 回	期末試験 Google クラスルームによる出題と答案提出

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	富士通エフ・オー・エム
タイトル	よくわかるマスター MOS Excel 20XX
出版社	FOM 出版

年度	2024	学期	後期
科目名	情報処理Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	山口 憲二		

講義概要

ビジネス実務関連の仕事に必要な Excel の基礎知識と基本スキルを実習形式で学ぶ。また同時に、どのような目的のために、どのような計算や分析、グラフ作成が望ましいのかについても理解できるように講義する。

達成目標

Excel の基本操作を一通り習得し、ビジネス実務で自ら Excel を用いて基本的な計算や分析ができる。また、MOS Excel などの試験にも挑戦する意欲をもつこと。

学修成果

ビジネスの現場で、どのような仕事・問題解決に、どのようなデータを用いて、表計算がどのように役立つかを理解し、実際に自ら Excel を用いて基本的な計算・分析ができること。

事前学習

前回の授業での疑問点を明確にし、教員への質問事項を整理しておく。

事後学習

毎時、実習内容を復習して、疑問点を明確にし、まずは自分で調べる。授業時間以外にも PC (Excel 等) に触れる必要があります。

授業計画

回	授業計画
第1回	Google クラスルーム登録。Word とのちがいを中心とした Excel の紹介。
第2回	簡単な縦横集計、半角/全角の区別。 計算式の入力とコピー、相対参照の意味。
第3回	構成比・累計の計算、絶対参照の意味。 合計計算の方法、オート SUM の利用と注意点。
第4回	増加率の計算、消費税率等のパラメータの絶対参照。
第5回	ここまでの Excel 機能復習。PC へのファイル保存。クラウド (Google マイドライブ) の利用。
第6回	簡単な棒グラフ、折れ線グラフの作成。グラフ作成の目的と相応しいグラフの種類。
第7回	円グラフの作成。表とグラフによる売上レポートの作成
第8回	前半の総合復習問題演習。Google クラスルームによる出題とレポート提出 (アップロード)。
第9回	基本的な関数 (AVERAGE, COUNT, MAX, MIN, SUM) と行の並べ替え。
第10回	演算子、論理式と IF 関数による条件付きの計算
第11回	総合演習 1 (実務基本レベルの表作成とマイドライブへの保存)
第12回	総合演習 2 (総合演習 1 の編集) Google クラスルームによる問題の配布と答案提出
第13回	総合演習 3 (実務標準レベルの表作成とマイドライブへの保存)
第14回	総合演習 4 (総合演習 3 の編集) Google クラスルームによる問題の配布と答案提出
第15回	期末試験 Google クラスルームによる出題と答案提出

評価方法 定期試験 : 70% 小テスト・課題等 : 30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	富士通エフ・オー・エム
タイトル	よくわかるマスター MOS Excel 20XX
出版社	FOM 出版

年度	2024	学期	前期
科目名	時事研究 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

講義概要

これからのグローバル社会で活躍するためには、世界の政治・経済・社会問題にしっかりと目を向け、自分たちで解決策を提示して、実行していかなければならない。本講義では、国際的な諸問題の中から最低限身に付けておくべき知識を学び、それらの解決策を自分なりに提示できるようにしていく。

達成目標

国際的な問題の知識を学んだうえで、その中から「問題発見・問題分析・問題解決」を行えるようにしていく。また、課題提案力を身に付け、自分の意見を相手に伝えられるようにする。

学修成果

世界の政治・経済・社会問題を理解することができる。そこから、ビジネスに生かすための知識を身に付け、社会常識として世界のできごとを面接等で話すことができる。

事前学習

前回の授業の復習

事後学習

授業後の再考察

授業計画

回	授業計画
第 1 回	オリエンテーション・先進国と発展途上国のちがい
第 2 回	新興国の発展 途上国の発展の様子を考察する
第 3 回	資本主義と社会主義 世界の経済がどのように動いているかを考える
第 4 回	人口爆発① 途上国がなぜ人口が増えているかを考察する
第 5 回	人口爆発② 人口が増加することで起こる問題点と解決策を考える
第 6 回	食糧問題① 先進国と途上国の食糧問題のちがいを考察する
第 7 回	食糧問題② フードロスの問題点と解決策を考える
第 8 回	資源・エネルギー問題① 現在の資源の問題を考える
第 9 回	資源・エネルギー問題② 新しいエネルギーの活用方法を考える
第 10 回	世界の環境問題① 地球温暖化の問題点と解決策を考える
第 11 回	世界の環境問題② 海洋汚染の問題点と解決策を考える
第 12 回	世界の環境問題③ 酸性雨・オゾンホールの問題点と解決策を考える
第 13 回	試験前対策① 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第 14 回	試験前対策② 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	時事研究Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	伊藤 憲彦		

講義概要

前期に学んだことを踏まえ、日本と世界を比較した際に、どのような違いがあるのかということ进行考察していく。また、日本がどのように世界と関わりを持ち、どのように発展をしてきたのかを、世界の国・地域との関係性を見ながら学んでいく。モデルケースも用いながら、グローバルな視点で物事を考えられるようにしていく。

達成目標

国際的な問題の知識を学んだうえで、その中から「問題発見・問題分析・問題解決」を行えるようにしていく。また、課題提案力を身に付け、自分の意見を相手に伝えられるようにする。

学修成果

世界の政治・経済・社会問題を理解することができる。そこから、ビジネスに生かすための知識を身に付け、社会常識として世界のできごとを面接等で話すことができる。

事前学習

前回の授業の復習

事後学習

授業後の再考察

授業計画

回	授業計画
第1回	オリエンテーション・日本と世界の関係を多角的視点で捉え考える①
第2回	日本と世界の関係を多角的視点で捉え考える②
第3回	日本と世界の関係を多角的視点で捉え考える③
第4回	世界から見た日本はどのように映るのかを考える①
第5回	世界から見た日本はどのように映るのかを考える②
第6回	世界から見た日本はどのように映るのかを考える③
第7回	(モデルケース) 日本企業が世界に与える働きを考察する①
第8回	(モデルケース) 日本企業が世界に与える働きを考察する②
第9回	日本企業と世界企業を比較し、それぞれのちがいを考察する
第10回	世界が一つになるために、私たちが行うこと
第11回	SDGsとは① SDGsの1~9について考える
第12回	SDGsとは② SDGsの10~17について考える
第13回	試験前対策① 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第14回	試験前対策② 今までの復習を行い、内容の定着度を確認する
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	計算能力演習 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	大塚 通成		

講義概要

簿記は、企業の経済活動に欠くことのできないものです。大企業から中小企業、個人商店にいたるまで簿記を用いています。また簿記の資格は、ビジネス系の資格においては常に人気ナンバーワンとなっています。この講義では商業簿記の基本について問題演習を中心に講義を進めていきます。

達成目標

簿記の基本を理解し、会社における日常取引および決算の基本的な処理についての実践的なスキルの習得を目標とします。また、全経簿記能力検定試験 3 級の合格を目標とします。

学修成果

企業における期中取引の基本仕訳、主要簿、補助簿の記入及び作成、決算手続きなど、簿記の基本処理が可能となります。また、7 月に実施される全経簿記能力検定 3 級試験を受験し合格することが可能です。

事前学習

毎回の講義前の事前学習として、前回講義の内容を、サブノートを用いて復習する。必要時間は 15 分程度とする。

事後学習

事後学習としては、定期的に Google form を使用しての課題を課す。所要時間は 15 分程度とする。

授業計画

回	授業計画
第 1 回	ガイダンス 簿記の資格検定試験（全経簿記能力検定、日商簿記検定）
第 2 回	貸借対照表・損益計算書の作成問題演習と解説
第 3 回	簿記上の取引、基本仕訳、仕訳帳についての問題演習と解説
第 4 回	総勘定元帳の勘定口座への転記、試算表の作成についての問題演習と解説
第 5 回	商品売買の仕訳演習、仕入帳、売上帳、仕入先元帳、得意先元帳について
第 6 回	商品有高帳の作成意義と作成方法/全経簿記検定 3 級第 4 問対策
第 7 回	現金取引、当座預金取引の仕訳問題演習、現金出納帳、当座預金出納帳
第 8 回	インプレストシステム、小口現金の仕訳と小口現金出納帳の作成
第 9 回	全経簿記 3 級第 2 問計算問題対策、問題演習、解答解説
第 10 回	全経簿記 3 級第 3 問伝票問題対策、問題演習、解答解説
第 11 回	全経簿記 3 級第 1 問仕訳問題対策①、問題演習、解答解説
第 12 回	全経簿記 3 級第 1 問仕訳問題対策②、問題演習、解答解説
第 13 回	全経簿記 3 級第 4 問帳簿作成問題対策、問題演習、解答解説
第 14 回	全経簿記 3 級直前対策総まとめ、問題演習、解答解説
第 15 回	単位取得のため、及び学習効果と到達度確認ための定期試験の実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	高橋雅巳
タイトル	簿記 3 級 全員合格サブノート
出版社	オリジナル教材

参考書

著者名	TAC 株式会社またはネットスクール株式会社 桑原知之
タイトル	日商簿記 3 級合格トレーニングまたは全経簿記能力検定試験公式問題集 3 級
出版社	TAC 出版またはネットスクール出版

年度	2024	学期	前期
科目名	総合科目演習 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	高屋 政一		

講義概要

近年、統計学は様々な学問や産業分野において、その統計データの活用を如何に行って分析結果を導き出して、様々な判断を可能にしていくのかという社会的なニーズが高まっている。統計データを的確に処理でき、得られた結果を正確に理解、解釈していくために必要な知識を学ぶ。

達成目標

統計学の基本的考え方となる「客観的」な解釈の基礎となる平均概念を徹底し、そこから偏差や分散、共分散、相関係数などを学習していき、散布図を用いた相関分析を実際に計算しレポート作成まで行えるようになる。

学修成果

身の回りに実際にある統計データを見て、客観的な解釈を平均概念をもとにその相関性の有無や相関のトレンド(正の相関または負の相関)、その相関の強弱に至るまで深く理解出来るようになる。

事前学習

各回のテーマについてテキストの該当箇所を精読しておく。60 分程度

事後学習

授業後の再考察

授業計画

回	授業計画
第 1 回	講義ガイダンス 統計学の学習と準備について
第 2 回	統計学とはどういうものなのか、また何故必要になるのか
第 3 回	さまざまな統計分析の理論的な背景について
第 4 回	統計分析の理論的な背景から分析法の適用について学ぶ
第 5 回	データの数量化 主観的データの数量化について
第 6 回	各統計データへの客観視 平均値についての考え方及び計算方法
第 7 回	平均値の表記 一般式を Σ や n などの文字を用いて表現する
第 8 回	統計データ 平均値を用いて偏差を求め、平均値からのズレについて学ぶ
第 9 回	統計データ 分散の考え方と求め方について
第 10 回	統計データ 標準偏差の考え方と求め方について
第 11 回	統計データ 共分散の考え方と求め方について
第 12 回	統計データ 散布図の読み取り方と作成のしかた
第 13 回	統計データ 相関係数を用いた相関分析の考え方と求め方について
第 14 回	統計データ 相関分析の考え方と求め方について 相関分析によるレポートの作成方法について
第 15 回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	阿部 真人
タイトル	データ分析に必須の知識・考え方 統計学入門
出版社	ソシム

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	総合科目演習Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	高屋 政一		

講義概要

本講義では、エクセルの操作を通じて統計学の概念を理解して、データ分析ができるようになることを目的としている。具体的なデータをエクセルで分析しながら統計学を学習していく。資格「ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析ベーシック」を取得するために必要な内容である。

達成目標

資格「ビジネス統計スペシャリスト・エクセル分析ベーシック」を目指すことができるレベルの知識を得る。エクセルに含まれている統計に関連する各ツールを実際を使ってデータ処理・分析が確実にできることを目指す。

学修成果

エクセルで使える統計関連ツールや関数について確実に使えるようになる。

事前学習

前回の授業の復習

事後学習

授業後の再考察

授業計画

回	授業計画
第1回	平均値
第2回	トリム平均とレンジ
第3回	分散と標準偏差
第4回	データの標準化
第5回	データの種類とグラフ
第6回	相関係数と近似曲線
第7回	回帰と予測値
第8回	最適化
第9回	移動平均と季節変動
第10回	季節調整
第11回	度数分布表とヒストグラム
第12回	集計
第13回	外れ値
第14回	#REF!
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	岡田 朋子
タイトル	エクセルで学習するデータサイエンスの基礎
出版社	近大科学社

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ビジネス検定対策 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

講義概要

情報処理技術者試験「IT パスポート」の内容を中心に、企業の仕組み、法務、経営戦略、事業戦略、経営管理などを学びます。また、時事問題（ニュースや技術動向）を随時取り上げて、社会の変化に対する感性を養います。

達成目標

ビジネス現場におけるシステムの役割を理解し、システム運用者として必要な知識や振る舞いを習得する。企業における IT 戦略の位置づけや将来性について理解し、具体的なシステムの活用イメージを理解する。

学修成果

企業活動の基本から情報システム戦略にまたがる IT を活用したビジネスの土台となる知識を得る。た、有効なシステムを手に入れるために必要な考え方や手法を理解する。

事前学習

テキストの予習

事後学習

キーワードの暗記

授業計画

回	授業計画
第 1 回	「企業活動」 企業活動の目的、経営資源等
第 2 回	「企業の仕組み」 経営目標、CSR、PDCA
第 3 回	「経営管理」 BC、HRM、人材育成
第 4 回	「業務分析」 PRET、管理図、レーダーチャート、各種グラフ
第 5 回	「社会における IT の利活用」 AI、DX、スマート社会、第 4 次産業革命
第 6 回	「法務 1」 著作権法、知的財産権関連法、不正競争
第 7 回	「法務 2」 労働関連法規、契約関連法規、IT 関連法規
第 8 回	「小テスト・解説」 企業と法務分野の小テストおよび解説
第 9 回	「事業戦略」 事業戦略、事業戦略策定の流れ
第 10 回	「戦略目標の策定」 戦略目標策定のための情報分析手法
第 11 回	「経営分析手法」 SWOT 分析、PPM、3C 分析
第 12 回	「問題解決手法」 RFM 分析、フィッシュボーンチャート
第 13 回	「経営管理」 CRM、SCM、VM
第 14 回	「経営管理」 VCM、ナレッジマネジメント、QC
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	滝口 直樹
タイトル	ゼロから始める IT パスポートの教科書
出版社	とりに書房

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ビジネス検定対策Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

講義概要

Microsoft Word の操作を中心に、コンピュータによる文書作成の基礎を学びます。Word の基本操作、日本語による文章入力、ビジネス文書の作成ルールなどを実習による習得します。
講義内容は MOS Word 試験にも対応し、資格取得への対策も行います。

達成目標

日本語文章入力（10 分間に 400 文字程度）
Microsoft Word の基本操作（ビジネス現場において不足のない内容を網羅）※希望者は MOS Word を受験・合格
学修成果

日本語入力の手法を取得し、正確に入力ができる力を得る。
Word の基本操作を習得し、ビジネス文書やチラシなどの書類を効率的に作成するスキルを得る。

事前学習

前回の操作の復習

事後学習

操作の復習

授業計画

回	授業計画
第 1 回	「ガイダンス・コンピュータの基礎」 コンピュータのしくみ、入力方法
第 2 回	「日本語入力」 ローマ字による日本語入力方法
第 3 回	「日本語文章入力」 文節の漢字変換を伴う短文入力方法
第 4 回	「フォントの設定 1」フォント種、サイズ等の設定、文字揃えの設定
第 5 回	「フォントの設定 2」フォントの色、インデント、あいさつ文
第 6 回	「行と段落」 行間の設定、段落設定
第 7 回	「小テスト」 小テストと解説
第 8 回	「テーマ、スタイル」 テーマの変更、スタイルの設定
第 9 回	「リスト」 箇条書きの作成、段落番号の作成
第 10 回	「クリップボード・検索と置換」 コピー・移動、検索、置換
第 11 回	「目次、用紙設定」 目次の追加、用紙・余白等の設定
第 12 回	「表の作成 1」 表の作成、デザイン変更
第 13 回	「表の作成 2」 表のレイアウト設定
第 14 回	「総復習」 これまでの学習の総復習・問題練習
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	ビジネス検定対策Ⅲ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

講義概要

情報処理技術者試験「ITパスポート」の内容を中心に、コンピュータのしくみ、ネットワークの基本を学びます。また、時事問題（ニュースや技術動向）を随時取り上げて、社会の変化に対する感性を養い、DXに対応できる人材を目指します。

達成目標

コンピュータのしくみやクライアントサーバシステム、ネットワークの技術などビジネス現場における IT 活用やシステム運用に必要な知識や振る舞いを習得する。

学修成果

コンピュータのしくみを理解して、ビジネスで IT サービスを活用するために必要な環境を整える知識を身につける。
ネットワークのしくみを理解し、ビジネスでインターネットの活用などにつなげる。

事前学習

テキストの予習

事後学習

キーワードの暗記

授業計画

回	授業計画
第1回	「コンピュータの基礎」五大装置（五大機能）、コンピュータの分類
第2回	「CPU」 演算・制御の役割、CPUの内部構造
第3回	「メモリ」 RAMとROM、HDD、外部メディア
第4回	「ソフトウェア」 OSの種類と役割、アプリケーションソフトウェア
第5回	「システム」 システム構成、クライアントサーバシステム
第6回	「システム運用」 多重化、バックアップ、非常時対策など
第7回	「小テスト・解説」 コンピュータシステムの小テストおよび解説
第8回	「ネットワークの基本」 ネットワークの種類
第9回	「LANの構成」 LAN構成機器（モデム・ルータ・ハブ等）の理解
第10回	「インターネットのしくみ」 インターネット技術（TCP/IP）
第11回	「人的脅威と対策」 人的脅威、人的セキュリティ対策
第12回	「物理的脅威と対策」 物理的脅威、物理的セキュリティ対策
第13回	「技術的脅威」 技術的脅威、マルウェアやその他の攻撃
第14回	「技術的セキュリティ対策」 マルウェア対策、機器保全対策、暗号化
第15回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	滝口 直樹
タイトル	ゼロから始める IT パスポートの教科書
出版社	とりの書房

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	ビジネス検定対策Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	滝口 直樹		

講義概要

MOS 検定受験を念頭に、Microsoft Word2016 および Excel2016 の操作を中心に操作を学びます。
 また、試験対策として模擬試験をはじめとする問題演習なども並行して進めます。
 前期に引き続き、日本語入力練習については毎回実施します。

達成目標

日本語文章入力（10 分間に 400 文字程度）
 MOS Word2016 および MOS Excel2016 に対応する操作の習得。

学修成果

Microsoft Word2016 の操作を、MOS 検定一般レベルの基準を満たす範囲で学習します。
 また、Excel2016 の基本操作も習得します。

事前学習

前回の操作の復習

事後学習

操作の復習

授業計画

回	授業計画
第 1 回	MOS ガイダンス 試験概要、模擬試験の確認、学習方法
第 2 回	「ヘッダーとフッター」 ヘッダー、フッターの設定、ページ番号
第 3 回	「画像（写真・イラスト）」 画像の挿入・編集
第 4 回	「図形」 図形の追加・編集、テキストボックスの追加
第 5 回	「スマートアート」 スマートアートの挿入、編集
第 6 回	「環境設定」 Word オプション、情報画面、プロパティ
第 7 回	「参考資料」 脚注の挿入、参考文献の扱い
第 8 回	「セキュリティ・保存時の検査」 パスワードの設定、ドキュメント検査
第 9 回	「Excel の基礎」 Excel の画面説明、新規作成・保存方法
第 10 回	「セルの扱い」 セルの基本操作、オートフィルによるコピー
第 11 回	「四則演算」 セル参照による演算、絶対参照・相対参照
第 12 回	「四則演算」 セル参照による演算、複合参照
第 13 回	「表の作成・画面操作」 罫線の設定、塗りつぶし、セルの結合
第 14 回	「テーブル」 テーブルの作成、設定
第 15 回	期末試験

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	FOM 出版
タイトル	Microsoft Word 2016 対策テキスト& 問題集
出版社	FOM 出版

参考書

著者名	
タイトル	
出版社	

年度	2024	学期	前期
科目名	課程演習 I	単位	2 単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	加藤 淳		

講義概要

近年加速するグローバル化・IT化する現代社会の中で、注目されている Web マーケティングの必要性やその位置づけ、具体的な活用方法や戦略方法などを、実際の企業のビッグデータや AI、IoT などの活用例を取り上げながら学習していく。

達成目標

Web マーケティングのメリットとデメリットを確認し、各顧客段階に対する CVR(コンバージョンのレート)の向上と流入量の増加を、Web マーケティングの PDCA サイクルの考え方をもとに理解を深める。

学修成果

身の回りに実際にある各企業の Web マーケティングの取り組みを見て、その仕組みを深く理解できるようになる。また、日本以外の国々に見られる Web マーケティングの取り組みについても同様に目を向け、理解できるようになる。

事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。30 分程度

事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。30 分程度

授業計画

回	授業計画
第 1 回	講義ガイダンス Web マーケティングとは
第 2 回	グローバル化していく社会変化や産業の変化と IT の技術進歩
第 3 回	マーケティングの 5A 理論に位置する「推奨、ネット拡散」について
第 4 回	データドリブンマーケティング ビッグデータの活用
第 5 回	予測マーケティング 予測モデルに対する戦略法
第 6 回	コンテクスチュアル・マーケティング AI や IoT の活用について
第 7 回	拡張マーケティング チャットボットやバーチャル店員などの人間を模倣した技術の応用
第 8 回	アジャイル・マーケティング 急速な市場の変化への適応 製品ライフサイクルの短縮化
第 9 回	これまでの IT 化と DX (デジタルトランスフォーメーション) の違いについて
第 10 回	DX の活用 オンラインスクールや無人店舗、モバイルオーダー
第 11 回	Web マーケティングのメリットとデメリット
第 12 回	通信販売であるネットショップと特定商取引法について
第 13 回	CVR(コンバージョンのレート)の向上について
第 14 回	Web マーケティングの PDCA サイクルについて
第 15 回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	適宜、授業中にプリントを配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	必要に応じて紹介
出版社	

年度	2024	学期	後期
科目名	課程演習Ⅱ	単位	2単位
学科コース	マーケティング・サイエンスコース		
講師名	加藤 淳		

講義概要

前期に学んだWebマーケティングの基礎を固め、マーケティングの5A理論の実例となる、Webサイト作成方法や運用方法、また、各SNSツールを用いたマーケティング手法を学習し、Webマーケティングの可能性を考察しながら学んでいく。

達成目標

Webマーケティングの戦略ストーリーでペルソナとノウハウ・実績・想いの入ったUSPを設定し、顧客が「自分ごとと感じ、商品・サービスの価値も伝わるキャッチコピー」の作成を行い、SNSツールを用いた集客からアフターフォローまでの流れを理解する。

学修成果

WebサイトやSNSの利用頻度や利用時間が高まる中で、それらが実際にどのような視点からの情報発信であるのか、またその中でどのような分析が行われているのかなどを、日常生活での利用の中で意識していけるようになる。

事前学習

配布プリントの中から、次回の学習項目をしっかりと予習する。30分程度

事後学習

各回の学習内容をしっかりと復習する。30分程度

授業計画

回	授業計画
第1回	ガイダンス 前期で学んだ学習内容の確認・復習
第2回	USP (ユニーク・セリング・プロポジション) について
第3回	Webマーケティングの戦略 ペルソナとUSPの設定と整合性
第4回	Webマーケティングの戦略 優れたキャッチコピーの3条件
第5回	Webマーケティングの戦略 SEO (Search Engine Optimization)
第6回	UGC (User Generated Content) とは
第7回	5大ツール (Facebook、X、Instagram、LINE、YouTube) の活用 発信
第8回	5大ツール (Facebook、X、Instagram、LINE、YouTube) の活用 分析
第9回	5大ツールのそれぞれの強み・年齢別利用率推移
第10回	Webマーケティングの戦略 SNSマーケティング (集客)
第11回	Webマーケティングの戦略 SNSマーケティング (信頼関係の構築)
第12回	Webマーケティングの戦略 SNSマーケティング (アフターフォロー)
第13回	バーチャル空間 セカンドライフとメタバース
第14回	インターネット活用に潜む課題への注意点・対策方法
第15回	期末試験：試験実施

評価方法 定期試験：70% 小テスト・課題等：30%

教科書

著者名	
タイトル	適宜、授業中にプリントを配布
出版社	

参考書

著者名	
タイトル	必要に応じて紹介
出版社	